

【これが財部市政のスタートか】

☆二十四年度補正予算案を全会一致で否決☆

4月二十四日の対馬市臨時議会は、一般会計補正予算案(一号) 一億一千五百万円を追加し総額二百八十七億五千千百万円を、本議会に於いて一人とても議員の賛成を得られず、全会一致にて否決した、前代未聞の出来事、対馬市誕生以来初、旧六町時代でも無かった筈、財部市長は、対馬のリーダーとして市政を預かるトップして、心肝なる汚点を対馬市に残した、その傷跡は払拭出来ない、今日まで予算は、金科玉条の如く可決されてきたが、今回の予算は、再選されて選挙公約実行の為の肉付け予算でもあり、その補正予算を一蹴にして反故にされた、財部市政の四年間は、何だったのか信が問われる、基本となる基軸が大きく曲がった、全会一致否決の意義は大きい、その意味するものは何か、それは、狭義的目線思考能力による全体包括能力欠如に尽きる。否決内容を私なりに説明します、否決の主部分は、美津島町鴨居瀬小学校の廃校を【対馬ニュービジネスサポートセンター】に改修する工事である、工事費、均八千万円、目的は、市が現在島おこし協働隊で取組んでいる、薬草、鹿、イノシシの皮等を中心とした研究、商品開発等を行い、島内の起業、独立のビジネスサポートする施設であるとの事、問題点は四点、①点は、約八千万円も掛けて改修すべき建物かどうか、他の市、民間等の建物使用が可能ではないか。②点は、島おこし協働隊は3年間の事業、

建物が完成しても、残り 1 年間だけ、後は廃虚になるのではないか。③点は、建物改修後の運営計画が出来ていない費用がいくら掛かるか分らない。④点は、約八千万円の大きい事業(補助金一千三百万円、残金六千七百万円借金)事前に議会にも説明等をすべきではなかったか、一ヶ月前の三月定例議会でも説明はできた筈、以上の四点と言える。議会を憤慨させたのは、不内容は勿論の事、三月議会に事前の説明無しに臨時議会に予算を突然上げた事であろう、議会など私の意のままになると高をくくる市長の基本的考え方が問題とも言える、財部市長は、神にも近い存在である事は、市民皆承知しているが、今後四年間市政の付託を受けたのであれば、三六〇度目を凝らして、市民の声を真に心から聴く必要があるのではなかろうか、米沢藩の改革をなしえた上杉鷹山のように。

市議会議員 十一番 小宮教義